

〈解答〉

- ① 1 エ→イ→ウ→ア (完答)
2 執権
3 足利義満
4 〔例〕下の身分の者が上の身分の者に実力で打ち勝つこと。
5 書院造
6 ア
7 オ
8 ウ

配点 ① 1, 4 は各 2 点, 他は各 1 点 10 点満点

〈解説〉

- ① 1 桓武天皇は、新しい都で政治を立て直そうとして、784年に都を長岡京に移し、次いで794年には平安京に移した。→9世紀後半、藤原氏は、天皇が幼いときには摂政に、成長すると関白という天皇を補佐する職に就いて政治の実権をにぎる摂関政治を行うようになった。→白河天皇は、1086年に位をゆずって上皇になった後、摂政や関白の力をおさえて政治を行った。→平清盛は、後白河上皇の院政を助け、1167年に武士として初めて太政大臣になり、清盛の一族も高い地位に就き、栄華をほこった。
- 2 源頼朝の死後、幕府の実権は、有力な御家人をまとめた北条時政がにぎった。これ以後、北条氏は將軍の力を弱めて、政治の実権をにぎる執権という地位に就き、その地位を独占するようになった。これを執権政治という。
- 3 足利義満は、1392年、南北朝を統一して内乱を終わらせた。また、明から「日本国王」に任命された足利義満は、1404年、朝貢形式による日明貿易を始めた。正式な貿易船には、明から勘合が与えられたので、勘合貿易ともいう。
- 4 守護大名の一族やその家臣の中に、実力で守護大名にとってかわろうとする者が現れるようになった。このような下剋上の風潮が、応仁の乱をきっかけに全国に広がっていった。
- 5 応仁の乱以後の混乱に背を向けた足利義政は、京都の東山に禅宗の影響を受けた質素で気品のある銀閣をつくった。銀閣には寝殿造ではなく、禅僧の住まいをまねた書院造が取り入れられた。
- 6 1772年に老中になった田沼意次は、年貢だけにたよる従来の政策を転換し、発展してきた商品の流通や生産から得る利益によって財政の立て直しを図った。商工業者が株仲間をつくることを奨励し、これに特権を与えるかわりに営業税を取った。また、長崎での貿易を活発にするため、輸出品である銅の専売制を実施し、蝦夷地の調査を行い、俵物〔海産物〕の輸出を拡大した。イ1787年に老中になった松平定信は寛政の改革を始めた。江戸などの都市に出かせぎに来ていた者を村に帰し、商品

作物の栽培を制限して米などの穀物の栽培を奨励し、ききんに備えて米をたくわえさせた。また、江戸では旗本や御家人の生活難を救うため、町人からの借金を帳消しにした。ウ江戸幕府第5代将軍の徳川綱吉は、湯島の聖堂を建て、朱子学を幕府の学問とするなど文治政治を行った。しかし、財政の立て直しを理由に年貢を重くしたり、貨幣の質を悪くしたり、生類憐みの令を出すなど、社会に混乱を引き起こした。エ1841年に老中の水野忠邦は天保の改革を始めた。物価の上昇は株仲間が商品の流通を独占しているためと考え、株仲間を解散させた。また、年貢の確保のため、江戸に出ている農民を村へ帰させ、江戸や大阪周辺の大名領などを幕領にしようとした。

7 大老井伊直弼は、1858年に日米修好通商条約を結び、函館、神奈川（横浜）、長崎、新潟、兵庫（神戸）の5港を貿易港として開き、外国人居留地での自由貿易を認めた。この条約は、アメリカに領事裁判権を認め、日本の関税自主権がないなど、日本にとって不利な内容を含む不平等条約であった。次いで幕府は、オランダ、ロシア、イギリス、フランスとも、ほぼ同じ内容の条約を結んだ。下田は、1854年に結ばれた日米和親条約で、函館とともに開かれた。

8 近松門左衛門は、江戸時代中期の浄瑠璃や歌舞伎の台本の作者である。ア松尾芭蕉は、江戸時代前期の俳人で、それまでのこっけいを主とする俳諧を文学として高めた。代表作に紀行文の「奥の細道」がある。イ菱川師宣は、江戸時代前期の浮世絵画家で、代表作に「見返り美人図」がある。エ井原西鶴は、江戸時代前期の文学者で、武士や町人の生活をもとに浮世草子を書いた。